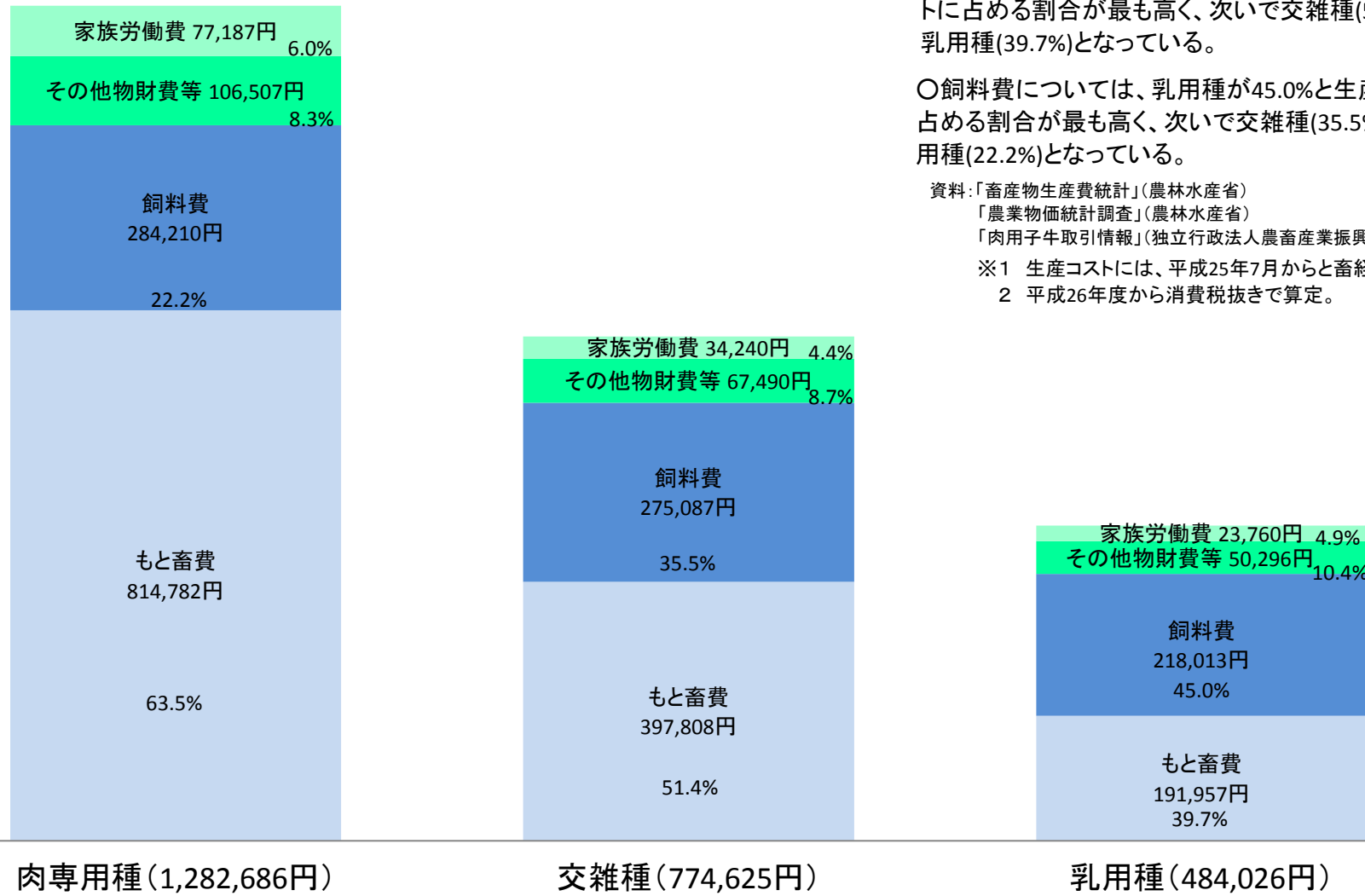


## 平成30年7月の1頭当たりの生産コスト(暫定値)



○もと畜費については、肉専用種が63.5%と生産コストに占める割合が最も高く、次いで交雑種(51.4%)、乳用種(39.7%)となっている。

○飼料費については、乳用種が45.0%と生産コストに占める割合が最も高く、次いで交雑種(35.5%)、肉専用種(22.2%)となっている。

資料:「畜産物生産費統計」(農林水産省)

「農作物価統計調査」(農林水産省)

「肉用子牛取引情報」(独立行政法人農畜産業振興機構)

※1 生産コストには、平成25年7月からと畜経費を算入。

2 平成26年度から消費税抜きで算定。